

No.	基本目標 & 基本施策	事業名 【担当課】	事業概要	概算事業費 (1年間)	効果	新規・継続 の別
1	1-②	小学生フッ素塗布事業 【健康づくり課】	永久歯のむし歯予防を図るため、永久歯に生え変わる時期の小学生に小笠・掛川歯科医師会菊川地区の歯科医師の協力でフッ素塗布を実施する。 KPI 1年:受診率60% 5年:80%	歯科衛生士備人料 @700,000円 歯ブラシ等消耗品 @800,000円 フッ素塗布委託料(医師) @1,000,000円		継続 (拡充)
2	1-③	産前産後の家事(洗濯)支援及び妊婦健康相談事業 【健康づくり課】	産前産後は母親にとって家事の負担が大きいことから、市内業者に洗濯作業を依頼した際に、経費の一部を補助(クーポン券の配布)する。また、クーポン券配布の窓口で専属の相談員を配置し、申請時に出産や子育てに不安を抱える方の個別相談も行う。 【対象】 菊川市に住民登録をしており、下記の条件に該当する方 ・妊娠8か月以降、出産後30日までの間、30回を上限とする ・体調不良等により、家事または育児を行うことが困難な妊婦及び母親 ・祖父母等と同居していない方(里帰り中も補助対象外) 【助成の内容】 ・妊婦本人とその夫、胎児の兄・姉に係る衣類の洗濯に係る経費の一部を補助 ※業者の派遣費用を市の補助対象とし、コインランドリーの利用料や洗剤等は利用者の自己負担とする。 KPI:1年 利用人数400人 利用回数800回 5年 利用人数2,000人 利用回数 5,000回	【事業費】 ・850円(1回)*400人*30回=10,200,000円 ・クーポン券印刷製本業務 @160,000円 ・正規職員(保健師)※相談に応じて、ケース記録作成や支援策の立案を要するため 洗濯を行う事業者としては、市内の子育てNPO、シルバー人材センター等を想定。		新規
3	1-④	子ども一人一台タブレット事業 (ICTを活用した授業の推進) 【学校教育課】	○児童生徒一人一台、タブレット端末を貸与する。インターネット接続がなくても学習ができるような端末及びシステムを導入し、家庭への持ち帰り学習にも対応する。 ○教材や資料を一括で管理するとともに、児童生徒の学習履歴を管理・分析するシステムを導入し、学力向上を目指す。 ○ハード・ソフト面でフォローするためのICT支援員を雇用する。	600,000千円	○児童生徒の学力が向上する。 ○先進的な取組として注目され、「菊川市で学ばせたい」と思う世帯が増加し、転入者が増える。	継続 (拡充)
4	1-④	英語力向上推進事業 【学校教育課】	○現在雇用しているALTを1人から3人に増員する。 ○各中学校に常勤とし、英語の授業にとどまらず、日常的な教育活動に参画させる。 ○部活動に「英語部」をつくり、英会話力の向上に向けての取組を行う。	9,000千円 /年	○中学生の英語力が向上する。 ○「英語力が向上する街」としてPRすることで、転入者の増加につながる。	新規
5	1-④	学校司書配置推進事業 【図書館】	平成27年4月より学校図書館法が改正され、学校司書の設置が努力義務となった。現在、公立図書館の職員3名が火、木、金曜日に学校を巡回している。小笠地区は1人が3校を担当し、菊川地区は1人で6校の担当となっており、負担が大きいため菊川地区担当の学校司書(嘱託職員)を1名増員し、学校図書館の充実を図る。	2,500千円 /年 (人件費)	○子どもの読書意欲の向上や情報活用能力の育成が図れる。 ○学校図書館の充実が図れる。 ○司書教諭の学校図書館運営に係る負担軽減により、図書館以外の業務に集中できる。 ○学校図書館と公共図書館の連携が強化される。	継続 (拡充)
6	1-④	図書館おはなし会の充実 【図書館】	図書館で毎週水曜に行われている、おはなし会を土・日曜日にも開催することにより、母親だけでなく父親が参加しやすい状況をつくりや、子育て環境や親同士の交流を図る。 毎週土・日曜日に読み聞かせ事業が実施できるよう、3名を読み聞かせ講師として雇用する。	6,000千円 /年(2館)	○子育て支援を行うことにより、子どもの増加や子育て世代の移住が見込まれる。	継続 (拡充)
7	3-③	菊川紹介冊子「いいじゃん！菊川」の作成【企画政策課】	7～8ページの写真やイラストメインの市の紹介冊子を作成し、全国移住イベントや東名SA、JRの在来線等で配布する。	東名SA 160千円 JR 300千円 郵送料 50千円 合計 510千円		新規
8	4-①	空き家等対策計画の作成(特定空き家対策) 【都市政策課】	今年度中に空き家等対策計画を作成する。内容はまだ定まっていないが、特定空き家対策等を盛り込む予定であり、特定空き家対策を行うことは、市の魅力向上につながると考えられる。			継続

No.	基本目標 & 基本施策	事業名 【担当課】	事業概要	概算事業費 (1年間)	効果	新規・継続 の別
9	4-②	ふるさと志向力を育むキャリア教育 について 【社会教育課】	中学生を対象にした地元企業による「就職ガイダンス」を実施することにより、市内で働きながら暮らすことの良さに気づくことを目的とする。菊川市に密着した企業の社員がプレゼンテーションを実施することで、社員と生徒が直接触れ合える場を提供する。	2,500千円 ／年 (人件費)	中学生を対象とすることで、地域を知り将来就職するためのきっかけづくりになる。また学校と企業、市役所や保護者が一体となって子どもたちに関わり、菊川市で働き、暮らすことの良さについて共に考える機会になる。	継続 (拡充)
10	4-②	都市計画道路の見直し【都市政策課】	都市計画道路について、整備を進めるかどうかの判断を行い、平成29年度をめどに新しい都市計画道路マップを作成する。整備された道路周辺には店舗や住宅の新設が見込まれることから、定住推進につながると考える。			継続
11	4-②	土地区画整理事業(住宅地の提供 と生活環境整備)【都市整備課】	区画整理を通じて住宅や店舗の立ちやすい環境を整備する。現在は赤土地区の区画整理事業について検討している。			継続
12	4-②	Be菊川JIN 転入ありがとう事業 【企画政策課】	【概要】菊川市に転入された世帯に感謝状と記念品を贈呈。 【対象】転入から1年経過した世帯、相談業務は希望する世帯 【内容】・市長からの感謝状の贈呈 ・記念品としてさわやか商品券等の商品券を交付し、市内の消費喚起を促す ・相談は地域支援課で対応 ・相談内容により、市職員や自治会役員、民生委員などが対応する	対象者 170世帯 感謝状台紙 6千円 記念品 340千円 郵送料 24千円 合計370千円		新規
13	4-④	潮海寺まちづくり推進協議会(狹隘 道路整備)【都市整備課】	潮海寺まちづくり推進協議会と協力し、潮海寺地区の狹隘道路を整備することで、住宅が建ちやすい環境を整備し定住促進へ繋げる。			継続

子育て支援提案事業

～子育てステーション～ くる☆リング

提案事業「～子育てステーション～ くる☆リング」

現状と課題や先進地事例を踏まえ、現在、小笠児童館として活用されている小笠支所の東館2階に「くる☆リング」を開設する。

(1) 提案事業の内容

「くる☆リング」では、「子育て用品のリユース販売」と「交流イベントスペースの設置」の2つの事業を実施する。

1) 事業概要

開催場所：菊川市役所小笠支所 東館2階

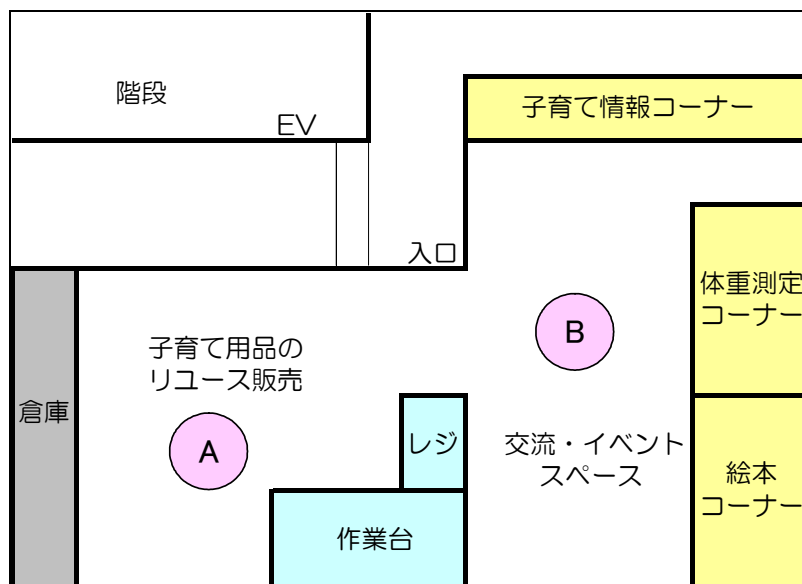
開催日時：午前9：00～午後4：00（土日祝、年末年始除く）

実施主体：(社) 菊川市シルバー人材センター

事業内容：A) 子育て用品のリユース販売

B) 交流イベントスペースの設置

2) イメージ図



(2) 事業内容A 「子育て用品のリユース販売」

1) 事業の目的

子育て用品を安価で提供することで、子育て世代の経済的負担を軽減させるとともに、交流イベントスペースへ足を運びやすくする。

2) 事業の流れ

基本的には、リサイクルバンク「マガモ」と同じように実施する。

- ・一般の市民から着なくなった子ども服などのリサイクル品を無料で引き取る。
↓
- ・引き取ったものを商品として売するため、商品状態の確認、アイロン掛けや洗濯など必要な作業を行う。
↓
- ・最終的に店員であるシルバー人材センターの会員がブランドや流行なども考慮しながら値段を付け、販売をする。

3) 実施効果

- ・商品を無料で引き取っているため、子育て用品を安価で提供することができるようになり、経済的負担を減らすことができる。
- ・シルバー人材センターの会員を活用することで、高齢者世代の新たな雇用の創出につながる。また、高齢者世代が子ども用品を扱う店員になることで、若い世代との触れあいや商品売ることの喜びにより、生きがい対策となる。
- ・必要でなくなったものがリユースされることとなるため、E C Oの取り組みになる。

(3) 事業内容B 「交流イベントスペースの設置」

1) 事業の目的

プレママ、ママ同士の交流の場を作ることで、ネットワークを広げてもらい、そのつながりを強くすることで、不安や孤独を感じる母親を減少させる。

2) 事業内容

- ・子育てコーナーとして、「子育て情報コーナー」、「体重測定コーナー」、「絵本コーナー」を設置する。特に「子育て情報コーナー」では、行政が取り組んでいる子育て施策を積極的にPRする。
- ・NPO法人ポレポレで実施しているような子育てに関する各種事業を開催し、プレママ、ママ同士の交流を図る。特に、他の公共施設が休館となっている月曜日を軸に事業を展開していく。

3) 実施効果

- ・人と人がつながることで、子育てに不安や孤独を感じている人を減少させることができる。また、行政が取り組んでいる施策を知ってもらうことで、人と施策がつながり、より充実した子育てライフを送ることができる。
- ・市内子育て団体の育成を図り、事業を実施し続けることで、行政の手の届かないきめ細やかなサービスを継続して提供することができる。

【参考資料】

- ・ 子育てコストに関する調査研究（財団法人こども未来財団）
- ・ 社団法人磐田市シルバー人材センター視察資料
- ・ 特定非営利活動法人ポレポレ視察資料
- ・ 平成23年度ポレポレ活動予定表
- ・ 平成22年度子どもたちの「こころを育む活動」受賞事例集抜粋資料（特定非営利活動法人ポレポレ）

子育て支援提案事業

パパスクール
～おとうさんといっしょ！！～

(1) 事業名

パパスクール ～おとうさんといっしょ!!～

(2) 対象者

市内在住の未就学児(0～6歳児)をもつ父親とする。この月齢は、父親の子どもとの関わりや関心が一番高い一方で、子どもの世話においても大変な時であるため、子どもへの影響が大きい時期からの育児参加を促すことを期待する。

(3) 事業主体

菊川市、子育て支援センター。

(4) 会場

プラザけやき(菊川児童館)、小笠児童館、公園などとする。多機能施設でもあるプラザけやき(菊川児童館)及び小笠児童館を主会場として事業を展開していく。

(5) 期間・回数

土曜日の午後、全10回程度の講座形式とする。主に働く父親を対象とすることから、土曜日の午後に開催していく。また、複数回(10回程度)の講座等を継続的に受講することにより、様々な知識や技術を習得するとともに、参加者同士のコミュニケーションを図っていく。

(6) 講師

著名な講師、市内子育て支援団体、育児経験者など。

(7) 募集方法

広報きくがわ、菊川市ホームページ、幼保育園や子育て支援センター(児童館)を通じたPRで、広く募集していく。

(8) 講座内容の検討

実地調査やアンケート結果(表6)を踏まえ、講座内容を検討していく。

表6 実地調査やアンケート結果

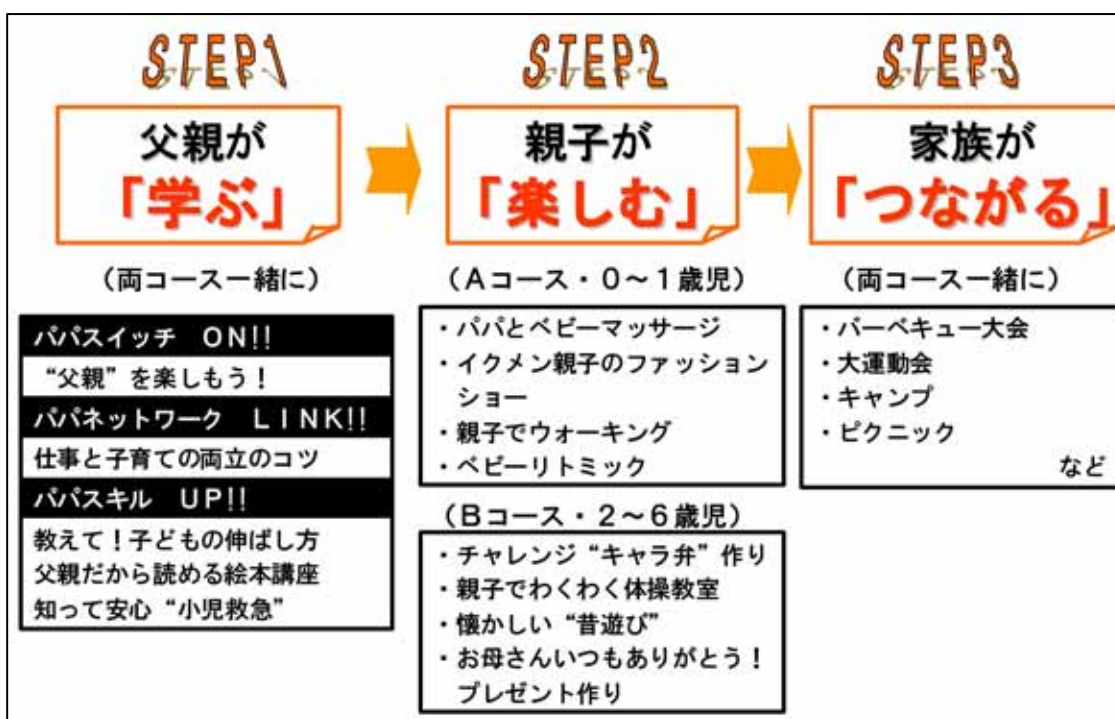
母親インタビューから	父親アンケートから(ベスト3)						
<ul style="list-style-type: none">・お父さんには、母親の1日を知ってもらえたらと思う。・以前、母親は1人でヨガをやり、その間に父親が子どもと遊んでいるものに参加したが良かった。	<table border="1"><tr><td>子どもとの遊び方</td><td>36.5%</td></tr><tr><td>昔遊びの伝授</td><td>29.6%</td></tr><tr><td>父親同士の情報交換会</td><td>14.8%</td></tr></table>	子どもとの遊び方	36.5%	昔遊びの伝授	29.6%	父親同士の情報交換会	14.8%
子どもとの遊び方	36.5%						
昔遊びの伝授	29.6%						
父親同士の情報交換会	14.8%						
母親クラブとの意見交換から	(その他)						
<ul style="list-style-type: none">・育児のアイデアを発表するイクメンコンテスト。・母親への「ありがとう」など、声かけの大切さを教える。・父子で母親へ手紙付きのプレゼントをあげたら、本当に嬉しいと思う。	<ul style="list-style-type: none">・子どもとお菓子作り・言葉の練習、トイレの練習など・子どもの叱り方、褒め方、伸ばし方など・親子でバーベキュー大会、ゲーム大会、キャンプ、ピクニックなど・家族ぐるみで親睦を深める・同世代の人たちと交流する						

(9) 講座のしくみとねらい

まず、幼児の年齢に合わせてコースや内容を設定する。0 から 1 歳児の父親対象とした A コース、2 から 6 歳の父親対象とした B コースとし、ともに 20 人程度のグループとする。

次に、コース別、共通（全受講者）の講座を設け、“父親が学ぶ”、“親子が楽しむ”、“家族がつながる”の3種類をテーマとして講座を展開していく（表7）。

表7 パパスクールの仕組み



上記のようなパパスクールのしくみには、3段階のテーマを踏まえた講座を開催することで、「父親の育児参加」と「子育て世代同士のつながり」を実現させていくねらいがある。まず第1段階で、父親が育児について学びながら、育児に興味を持つきっかけをつくる。次に第2段階で、親と子が楽しめる内容を取り入れることとで、講座への参加意欲を高め、親同士や子どもが互いに誘い合って、参加しやすくする。そして最後の第3段階では、参加者全員が楽しめる企画を実施することで、家族内の絆を深めながら、参加している他の家族との絆も深め、卒業後も家族間がつながっていくきっかけとなることが期待される。

(10) 講座の流れ・内容

1) STEP1 父親が「学ぶ」

STEP1では、父親自身が育児を“学ぶ”ことをメインとした講座を開催していく。

はじめに、「パパスイッチON!!」と題し、専門的な講師から父親であることの喜びや、父親ならではの子育て法を学ぶことで、育児を“義務”ではなく、“楽しめる権利”としての意識改革を行い、パパスイッチをオンしていく。

次に、「パパネットワークLINK!!」とし、講師の講話や父親同士の意見交換、グループディスカッションなどを通して、仕事と子育ての両立のコツを習得しつつ、父親同士のネットワークをリンクさせていく。

最後に、「パパスキルUP!!」ということで、日常生活に活かされる教育的要素を含む、子どもの伸ばし方や絵本講座、“いざ”という時に役立つ小児救急などを学んで、父親の育児力をアップさせる。

2) STEP 2 親子が「楽しむ」

STEP 2では、父子で参加して“楽しむ”ことを目的に、コース別に様々な講座を実施していく。

Aコース(0～1歳児)

0から1歳児をもつ父親を対象としたAコースでは、子どもが乳幼児期であることから、室内等でも手頃楽しめる遊び感覚の講座を実施する。例として、子どもと触れ合うベビーマッサージや子育て親子のファッションショー、ウォーキング、ベビートミックを考えた。

Bコース(2～6歳児)

2から6歳児をもつ父親を対象としたBコースでは、調理(弁当づくり)や体操、遊び、工作など、主に体を使っての楽しめる講座を実施する。例として、父子で一緒にキャラ弁作りやわくわく体操教室、昔遊び、お母さんに感謝の気持ちを込めたプレゼント作りを考えた。

3) STEP 3 家族が「つながる」

STEP 3では、家族間が“つながる”ことを目的に、全受講生とその家族を対象としたイベントを開催していく。父親向けアンケートでも多数意見を寄せられた“野外で楽しめるイベント”を行い、子育て世代(家族)がつながる場を提供する。

また、父親対象だけではなく、母親向けのリフレッシュ事業、家族ぐるみで楽しむイベントも実施する。

4) その他

講座の運営は、講師主導のもと受講生による自主運営とする。

(11) 参加者を増やす工夫

より多くの父親に参加してもらうために、講座内容の充実を図ることはもちろんのこと、父親の興味をかきたて、育児への参加意欲が増すような内容の講座を開催するために講師に著名人や専門家を招いていく。

また、父子が参加する講座の際には、母親個人においても1人の時間を楽しめるヨガやマッサージ等の企画を同時に実施し、母親が父親を連れて講座に参加したくなるようなきっかけを作っていく。その他、父親が講座に参加している時には、母子で児童館のイベント参加や遊戯室等で楽しみつつ、子育て世代間の交流を図ることで、自然と参加者同士のつながりが広がるような工夫も図っていく。

4. 事業効果・課題・今後の展開

(1) 事業効果

本事業に取り組むことで次のような効果が期待される。

1) 父親の子育てスキルの向上

父親の育児スキルを向上させることで、母親と並ぶ子育ての主な担い手となる。

2) 父親ネットワークの形成

年齢や職場・職種を越えて話し合える仲間ができ、父親にとって新たなネットワークの形成される。

3) 母親の自由時間の創出

父親と子どもの活動の間、母親にとって一人の自由時間が創出され、気分転換が図られる。また、母親同士の交流も深めることができる。

4) 子どもにとって新たな視野を養う

子どもにとっては、活動の中での父親との遊びや他の父親、地域の人たち、異年齢の子どもたちとの付き合いをとおして、新たな視野を養う等、貴重な体験ができる。

5) セーフティーネットの形成(身近な相談相手)

講師を地域で活躍している子育て団体や子育てサークル、地域の高齢者といった団体や個人に依頼することで、困ったときに公的機関より身近な相談相手となる。

(2) 課題

1) 講座内容の検討、工夫

主な参加者である父親が興味を示し、かつ楽しみながら学べる講座内容の検討、検証が必要である。また、休日(土曜日の午後)に実施することから、家族単位での高い満足度が得られるものとしなければならない。

2) 講師の選定

地域のつながり、身近な講師として市内の子育て支援団体等を招くこと、かつ、参加者のさらなるモチベーションの向上を図るため、プロの講師の活用も必要である。

3) 既存事業(子育て支援センターや児童館)との連携、調整

現在行われている事業の内容や時期等の検証により、連携、調整が必要となる。

4) 講座終了後のサポート

一時的な学びの場ではなく、その後の継続的な取組み、つながりがなされるようなサポートが必要である。

(3) 今後の展開

事業運営に関する今後の展開としては、数年先を見越して子育て支援センターから、各地域のコミュニティ協議会等の団体における市民活動として考えたい。

そのために市の役割は、活動を担う団体等の育成、自立運営までの必要最小限のサポートをしていくことが必要である。

【参考文献】

- ・ 「21世紀出生児横断調査」(厚生労働省)
- ・ 「菊川市次世代育成支援行動計画アンケート」(菊川市健康福祉部こどもみらい課)
- ・ 父親を楽しもう『パパブック』(神奈川県横浜市)
- ・ パパ応援Webサイト「ヨコハマダディ」チラシ(神奈川県横浜市)
- ・ 横浜イクメンスクール3期生募集チラシ(神奈川県横浜市)

高齢者支援提案事業

LLUK

~Long Life University of Kikugawa~

(1) 提案事業

LLUK ~Long Life University of Kikugawa~

(2) LLUKの趣旨

市内在住のプレ高齢者・高齢者を対象とし、大学に見立てた学びの場を開校することで、学びを通じて「仲間づくり」「生きがいづくり」の機会を提供し、生きがいを持って地域ですこやかに暮らせるための支援をする。

(3) 運営主体

菊川市（高齢者福祉主管課）

(4) 対象者（学生資格）

対象者は、50歳以上の市内在住者とする。

高齢者の年齢層は幅広いが、本施策は特に、対象とする層を退職前後世代と見込むため、プレ高齢者からを対象者とする。

(5) 学部

1) 開催形式

大学は、年度で開催（4月から翌年3月までの1年間）する。

また、講義は、退職して地域に戻ってきた人たちに居場所を与えるという施策の視点から、平日昼間に開催する。昼間の開催は、農業など屋外活動を行う学部を設置できるなど、学部内容の充実という視点からも、妥当であると考える。

開催頻度は学部により異なるが、月2回程度を予定する。

2) 学費

学費は、年額6,000円（材料費等実費別）とする。

視察先の場合、学費は、愛知県豊田市「豊田市高年大学」では年額12,000円、神奈川県相模原市「あじさい大学」では6,000円であった。

学費は、一度決定すると値上げするのは困難である。決定の際には、収益と費用の比率の設定・受益者負担の原則・受講意欲のわく金額設定の3点のバランスを考慮したい。

3) 設置学部・定員等

学部は、開校時は2～3学部を開設し、その後、受講者・市民のニーズを把握しながら、学部数を増やしていく。

なお、視察先の愛知県豊田市「豊田市高年大学」では、農業体験ができる「環境農学科」の人気があり、神奈川県相模原市「あじさい大学」では、「パソコン学科」の倍

率が高く、次いで「健康学科」や「美術学科」であった。こうした他市の状況を踏まえ、どのような学部を設置するか、検討したいと考える。

また、定員については、学部内でのつながりづくりを仕掛けるためには、規模を大きくせず、20人程度としたいと考える。

4) 学部の例

観光学部で『菊川市を“発信”』

学部テーマ	市内の文化や名所を知ること、地域の良いところを再発見し、「見て聞いて」の体験を通して、菊川市の魅力を“発信”し、地域の活性化を図る。
講義名	観光資源とは？ 菊川市の観光資源って？（グループワーク） 観光マネジメントに必要な視点 市内の観光資源を再発見1（現地体験） 市内の観光資源を再発見2（現地体験） 市内の観光資源を再発見3（現地体験） ツアープログラムの作り方 観光ツアーの企画1 観光ツアーの企画2 企画した観光ツアーの体験
講師	観光協会の会員など
卒業取得資格	市内観光案内マイスター（市認定資格）

その他の学部では・・・

農学部で『菊川市を“発見”』

耕作放棄地等を活用して、市内特産の「ミニトマト」「芽キャベツ」などの農作物の栽培・管理・収穫体験を通して、菊川市の地域資源を“発見”する。

- ・地域の園児との収穫祭 園児も市の資源を“発見”
- ・家族や友人との会食会 家族や友人も市の資源を“発見”

健康学部で『菊川市を“発掘”』

「健康」への関心が高まる中、健康について学ぶだけでなく、菊川市の健康資源を“発掘”する。

- ・体に良い菊川茶を使ったダイエット料理「D級グルメ」を“発掘”する。
- ・市内の景観を楽しめるウォーキングコースを“発掘”する。

学部選定のポイントは、「学生の知的好奇心が満足すること」「地域を知ること」「大学卒業後地域につながるきっかけとなること」である。

講師は、地域の人材を活用し講師と学生がつながることと、市外の専門家を招聘して専門性の高い講義を行い、大学の魅力を高めることをねらった人選をしたい。

(6) 共通講座

全学科共通の講座を開設する。共通講座は、学生同士のつながり・地域とのつながり・行政が市民に知ってほしいことを伝える場としたい。

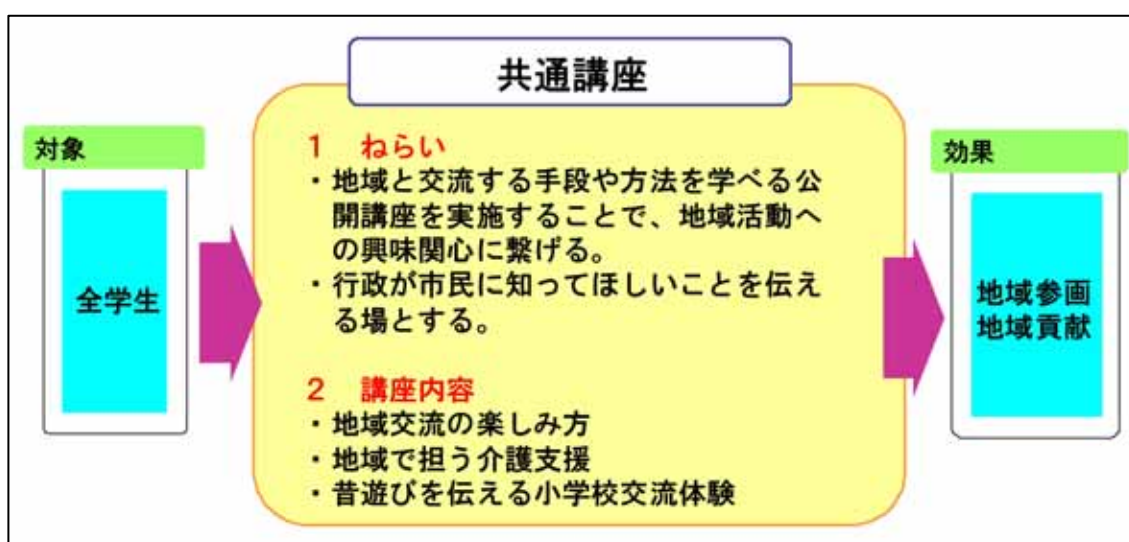
まず、学生全員が同じ場で学ぶことで、学生同士のつながりづくりの仕掛けとする。

また、地域とのつながりづくりの仕掛けとして、地域と交流する手段や方法を学ぶ講義を開催し、地域で重要な役割を担う一員として活躍できるよう学ぶ場とする。

そして、介護支援など、これからの社会で必要なことで、市民にぜひ知ってほしいと市が考える分野についての講義を開催し、行政情報の周知の場とする。

知的好奇心を呼び水に、大学に入学した学生に、共通講座を、地域につなげる仕掛けとしたいと考える。

表6 共通講座イメージ図



(7) L L U Kのキャンパスライフ

1) 年間行事

- ・ 入学式、卒業式
- ・ 健康診断（体力測定）
- ・ 学園祭、作品展
- ・ 社会見学、卒業旅行

他学部の学生との交流を図るしかけをつくり、幅広い仲間づくりをしやすい環境を提供する。

2) 学生による自主運営

生徒会長や学級委員を選出し、学生による自主運営を通じて、「やりがい」を感じる

ことができる。加えて、日直などの当番で、全員が大学の運営に参加し、責任感とモチベーションを持って大学生活を送ることができる。

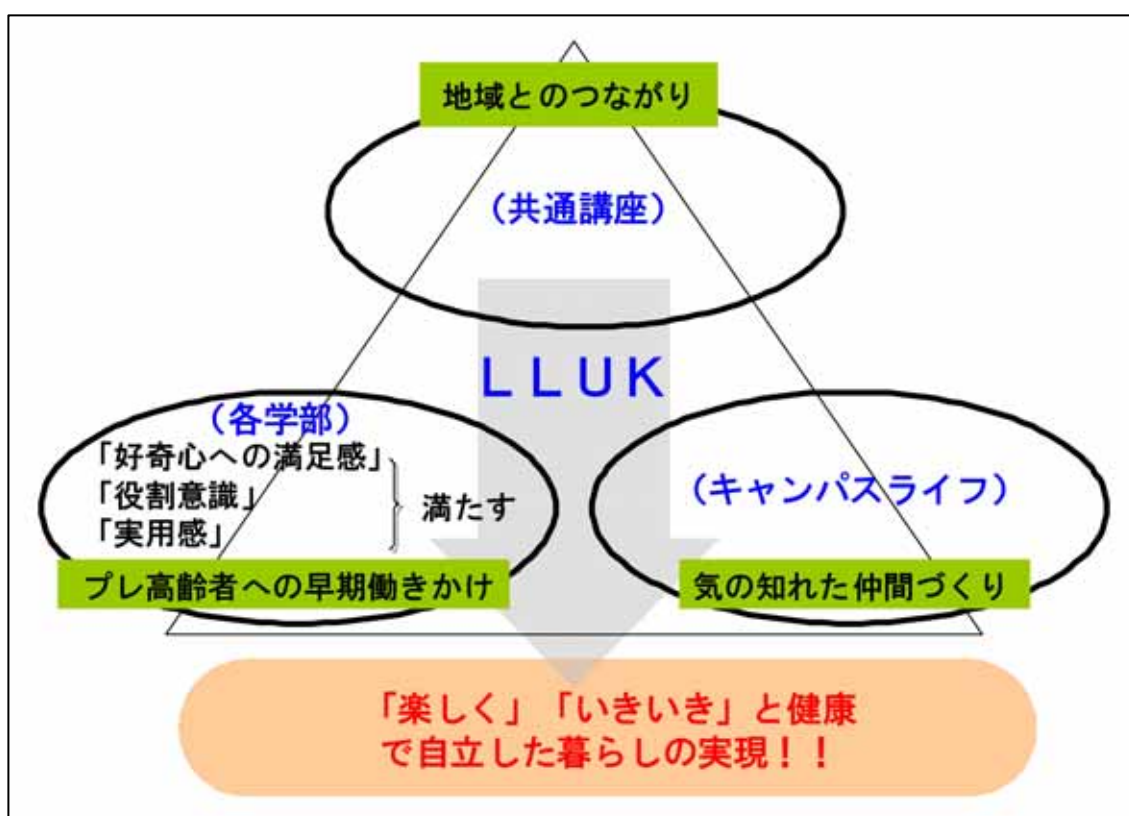
3) 学生証の発行

学生証を発行し、学生証を見せれば、市内の協賛店舗で割引特典がある学割の制度を作る。

(8) 住みたくなるまちの実現に向けて

住みたくなるまちの実現に向けて。LLUKでは、プレ高齢者への早期働きかけ・気の知れた仲間づくり・地域とのつながりを仕掛け、「楽しく」「いきいき」と健康で自立した暮らしの実現につながることを目指す。

表7 LLUKの住みたくなるまちの実現に向けたイメージ図



5. 事業効果・課題・今後の展開

(1) 事業効果

1) 仲間づくり

共通の嗜好を持ち同じ学部に参加した者同士が、ともに学び過ごすことで、仲間づくりのきっかけとなることが期待される。

2) 地域活動への参加のきっかけづくり

これまで地域に行けなかった人たちが、地域で活かせる大学の講義を受けることで、地域活動への参加のきっかけとなることが期待される。

3) 高齢者の活躍の場の創出

生徒として、講師としての躍動の場の創出。

大学で学んだことを活かして、地域で活動できる高齢者が増えることが期待される。また、大学の講師としての活用も考えられる。

4) 健康寿命の延長

大学卒業後も、継続して学習を続けることや、大学で出会った仲間たちと活動を続けたり、大学で知った既存の団体（NPO、文化協会、体育団体等）へ参加することで、元気でいきいきと暮らすことのできる期間がより長くなることが期待される。

5) 学割制度の活用による市内経済の活性化

副次的な効果としてはあるが、学生証による学割制度により地域の商店を利用する人が増えれば、市内経済の活性化につながる。

(2) 課題・今後の展開

今後の事業化に向けた展開の中で、考えられる課題を列記する。

1) 人を集める工夫

大学へ入りたいと思ってもらうためには、講義が学生の知的好奇心が満足するものであることが重要である。市民のニーズ調査を行い、興味のある分野の学部を開設する・市外の専門家を招聘して専門性の高い講義を行うなど、大学の魅力を高める工夫が必要である。

2) 行政が提供する場としての特色を出すこと

民間のカルチャーセンターとの違いを明確にし、知識や技術を学ぶだけに留まらず、学生同士・地域とのつながりづくりのきっかけの場として特色を出すことが重要であると考えられる。

3) 関係課・機関相互の連携

本事業は、高齢者福祉（支援）の立場からの生涯学習施策ととらえることができる。また、学生を地域につなげるために、地域づくり（支援）の立場からの連携も必要となると考えられる。

他にも、卒業後のボランティア活動につながる可能性があるため、社会福祉協議会など外部機関との情報共有もあり得る。

さまざまな立場から総合的に支援していくという、関係課相互の連携の視点が必要である。

【参考文献】

- ・ 「平成22年度高齢者福祉行政の基礎調査」(静岡県)
- ・ 「平成22年度高齢者の生活と意識に関する調査」(静岡県)
- ・ とよた市民活動センター 平成23年度事業概要(愛知県豊田市)
- ・ 平成23年度 豊田ヤングオールド・サポートセンター事業概要(愛知県豊田市)
- ・ 2011豊田市高年大学案内(愛知県豊田市)
- ・ 潤水都市さがみはら(神奈川県相模原市)
- ・ 平成23年度 あじさい大学 学生募集案内書(神奈川県相模原市)